

南九州畑作地域における大規模露地野菜経営の展開形態

田口善勝・倉知哲朗・久保田哲史
(九州沖縄農業研究センター)

Yoshikatsu Taguchi, Tetsuro Kurachi and Tetsufumi Kubota :
Development Form of a Large-scale Open Culture Vegetables Management in South Kyushu District

1. はじめに

南九州畑作地域における露地野菜生産は、澱粉原料用甘しょからの作物転換を図ることで成立してきた。こうしたなか露地野菜生産の大規模化は着実に進展しており、これまでの南九州畑作地域では想定できないような大規模露地野菜経営が出現してきている。

本稿では、こうした大規模露地野菜経営の成立と展開について、事例を基に検討を行う。

2. 調査対象事例の概況

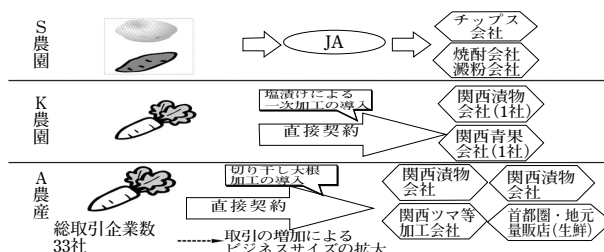
調査は、大隅半島北東部にある3つの大規模露地野菜経営 (S農園, K農園, A農産) に対する聞き取りにより行った (第1表)。いずれの経営も地域のトップ層であり、法人化している。経営の特徴は、経営耕地を借地に依存し、契約生産により販売を行っていることである。借地により経営規模の拡大を進め、食品産業と連携し、価格や量を契約する販売方法で、飛躍的な規模に達している。このように大規模露地野菜経営の成立には、「借地による経営規模の拡大」と「契約生産による販売」がキーとなることが分かる。以下では、この2つのキーを視点としながら、その展開を明らかにしていく。

3. 借地拡大の方法

調査対象事例は、経営規模の拡大を借地に依存しているが、拡大の方法はそれぞれ異なっていることに注目する必要がある。

S農園の借地の拡大は、「農地流動化の支援方策を利用した方法」である。S農園の所在する町では、1990年代中頃に、県・町の農地流動化支援方策が積極的に行われた。支援方策の内容は、認定農業者等の担い手に農地を集積させるため、貸し手・借り手の双方に奨励金を支払う方法である。S経営は、この農地流動化支援方策を活用し、1990年中頃から急速に借地を伸ばしていった。

K農園の借地の拡大は、「ネットワークを利用した拡大方法」である。K農園は、2002年まで地元漬物メーカーと大根の契約生産を行っていた。漬物メーカーでは、契約価格や量の交渉・実際の運営を、<メーカー>-<グループリーダー農家>-<契約農家>というネットワー



第1図 調査対象事例の販売方法

クを利用して行ってきた。K農園はグループリーダーであり、高齢化等により営農困難な農地の情報をいち早く入手することができ、このネットワークの活用により、借地の拡大を図ってきた。

A農産の借地の拡大は、「親からの継承と自己開拓による方法」である。A農産は、経営主が就農時にすでに両親が築いた30haの借地があり、スタートラインが恵まれていた。加えて、自己開拓により現在の規模に到達している。

4. 契約生産と販売方法

調査対象事例の契約生産による販売方法を第1図に示す。大規模露地野菜経営では、経営耕地が借地中心となり、雇用労働力も多く導入されるなど、経営に投下される資本が増大してくるため、経営収益の安定化は重要な事項である。こうした安定化への対応が、契約生産へと向かわせる。

S農園では、経営の中心となる馬鈴薯・甘しょをJAを通じた契約により販売している。JAを利用することで、生産に集中できるメリットがある。

K農園は、関西の漬物メーカーおよび青果会社と直接契約を行っている。漬物用大根は、洗浄とカットを行い、塩蔵による一次加工で販売する。加工部門の導入により、付加価値を高めた販売を行っている。

A農産は、大根の大量生産を背景に、33社との取引を行っている。大根の約70%が加工・業務用で、30%は生鮮野菜として販売している。経営主が、営業を専属に担当しており、事務員の導入など契約生産への対応は完成している。

5. おわりに

大規模露地野菜経営は、多様な借地のルートを探りながら、契約生産による販売への傾斜を強めていることが明らかとなった。

規模の零細性と経営の脆弱性が南九州畑作の特徴であると言われてきたが、調査対象事例のように、契約生産による販売を梃子に、借地により経営規模の拡大を図り、ダイナミックな発展を遂げている。しかし、全体の状況として、南九州畑作地域の零細性と脆弱性が、克服されているとは言い難い。高齢化や離農により供給される農地を、いかに大規模層が確保し、一定の層の厚みを持つか。そうした厚みの中から、調査対象事例のような大規模経営へと連続的に成長できるかが重要である。

第1表 事例の経営概況

		S農園	K農園	A農産
法人設立年次		2002年	1999年	2001年
経営耕地	水田 (借地)	- (-)	1.5 ha (1.2 ha)	0.5 ha (-)
耕地	普通畑 (〃)	22.3 ha (20.0 ha)	20.0 ha (12.0 ha)	45.3 ha (44.1 ha)
計 (〃)		22.3 ha (20.0 ha)	21.5 ha (13.2 ha)	45.8 ha (44.1 ha)
労働力	家族	4人	6人	6人
	常雇	4人	7人	17人
	臨時雇	300人日	?	?
作付作物	(2001年)	甘しょ 10ha 馬鈴薯 10ha 里芋 3ha 大根 3ha オクラ 10a キャベツ 3ha メロン 33a	(2003年)	大根 20 ha 甘しょ 4 ha 馬鈴薯 2 ha 里芋 2 ha レタス 2 ha 白菜 2 ha キャベツ 1 ha
	(2003年)	大根 85 ha 里芋 22 ha ごぼう 10 ha 甘しょ 10 ha 馬鈴薯 5 ha		
販売額		3,000万円	10,000万円	22,500万円